

今週の富大生

Weekly
TOMIDASEI

第15号

都市デザイン学部
都市・交通デザイン学科
3年
長野県木曾青峰高等学校
(長野県)

カイドクションで地域を盛り上げる



広い視点でのまちづくりに興味

祖父の職業が大工だったので、子どもの頃から建築に興味がありました。建築やまちづくりに関連することを学びたいと高校の先生に相談すると、富山大学の都市デザイン学部を勧められました。オープンキャンパスに参加したり、調べていくうちに「まちづくりにはいろんな視点が必要だな」という想いに至りました。やりたいこととマッチしていた都市・交通デザイン学科を受験し、合格することが出来ました。

教職員に相談しやすい環境

数学が苦手で、1年次では力学や微分・積分の講義が難しかったです。ついていくのに精いっぱいでしたが、都市デザイン学部の先生方は「わからないことがあれば、悩むのではなく聞きに来て」と言ってくれました。直接聞きに行き、個別で教えてもらえてありがたかったです。また、都市・交通デザイン学科には技術職員の方が常駐していて、困りごとを相談すると、先生に繋いでくれます。みんなその職員さんのことを「都市交通のお母さん」と呼んでいます(笑)
それくらい学生のことを親身になってくれる教職員が居てくれて風通しも良く、相談しやすい環境が整っているのが富大のいいところですね。

入学前から惹かれていた
自主プロジェクトへの参加

オープンキャンパスへの参加や都市デザイン学部のホームページから、都市・交通デザイン学科には独自の「自主プロジェクト」という活動があることを入学前から知りました。学生が地域でやってみたいことを企画し、1年間かけて実践的な活動に取り組むプロジェクトです。毎年6月ごろに募集がかかるので、私は入学後すぐに「県庁前公園の活用」というテーマで応募し、8名の学生と取り組みました。結果としては、地域の人を巻き込んできたのはとても良かったのですが、入学前から抱いていた「地元の長野を盛り上げたい」という気持ちが強まりました。

地元でのプロジェクト「カイドクション」

2年目の自主プロジェクトでは、地元・長野県木曾町の開田高原のまちづくりに携わる「カイドクション」というプロジェクトを立ち上げました。「もったいないをワクワクに」をモットーに、地元の団体と協働で地域の子ども向けに地元の魅力発見のためのワークショップを行っています。

地域課題の解決を目指す

現時点での進路は具体的に決まっていますが、プロジェクトのリーダーとして地域課題を解決していき存在になりたいと思っています。そのために、大学での勉強や研究だけではなく、「社会人と接点を持てる場」や「何かやりたいひとが集まる場」に積極的に参加し、見聞を広めています。



お世話になった高校の先生へ

受験生時代、私は先生方にたくさん助けられました。そのおかげで今はとても充実した大学生活を送っています。今も悩みはたくさんありますが、自分らしく生きていきたいと思います！また高校にお邪魔します(笑)